

授業科目名	文学Ⅱ	選択	開講年次	1	単位数	2
科目区分	基本科目					
サブタイトル	日本語の語源と中国文化		担当者	加藤 阿幸		
講義概要	<p>【概要】 日本語の語源を辿っていくと、日本語の文化が見えてきます。本講座は主に、その語源と中国の文化との関係を「えっ、そうなの？」との新鮮な驚きとともに解明していきたいと思ひます。</p> <p>【到達目標】 もっと日本語の美しさを再発見できるようにしたいと思ひます。</p>					
履修条件	板書を厭わずにちゃんと筆記できる人。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 特になし。</p> <p>【参考書】</p>					
授業回数	内容					
1	ガイダンス。					
2	「わたし」「ぼく」「あたい」「おれ」「おいら」—人称代名詞と日本社会の階層性					
3	貴様もお前も敬語だった？—含蓄的な文化とタブー型変化の関係					
4	漫画の擬音語の多用は他人を思ひやる日本語の特質の現れ？					
5	「こんにちは」「さようなら」などの挨拶からみる日本の縮み方文化					
6	「やぶへび」「ぼたもち」は縮み方文化の典型的言葉					
7	「パソコン」、「セクハラ」は外来語の縮み					
8	IT業界の「短小軽快」原則も元をただせば日本の縮み方文化の具現					
9	「完璧」、「玉碎」は中国語の四字熟語の縮み					
10	「ほくそ笑む」「ふざける」も中国のことわざが語源					
11	「せっかく」「ばか」は中国の故事が語源					
12	「あいさつ」「うちょうてん」は中国経由の仏教用語が語源					
13	日本の雨に関する言葉は世界一多い？—季節や自然現象と語源の関係					
14	なぜ「死んでも鯛」は中国では「死んだ駱駝は馬より大きい」と言うか					
15	なぜ「手紙」は中国では「トイレット・ペーパー」という意味になってしまうのか					
評価方法	板書された及び口述内容をまとめたものを最低10枚提出し、日本語の語源を3つ以上調べ、その出典、書籍、著者について解説し、最低400字以上をレポートにして提出すること。					
評価基準	上記授業の単元の内容について、決められた枚数によく書きまとめ、かつレポートの内容も適切に表現できたものには「A」を与える。単元の内容についての理解やまとめが不適切な点がある者には、その程度に応じて「B」または「C」とし、指定した枚数や字数が足りない者はその程度に応じて「D」または「E」とする					
その他	出席は三分の二以上が必要である					